



ついで通信

安全で安心して暮らせるまちづくりをめざして

発行

釧路市連合町内会

〒085-8505 釧路市黒金町7丁目5番地
釧路市役所内

電話 0154-31-4255

直通電話・Fax 0154-23-2101



＝第16回＝ ー高齢化時代・健康寿命を考える(6)＜高齢による症状に対応する時代＞

ドクター磯部の

処方箋



釧路労災病院
脳神経外科部長
磯部正則

高齢化時代、長生きできるようなことが、健康であることも望まれます。さらに健康ではあっても、今回も以下に述べる、認知症、それ以外の老化が原因で体に生じる症状にも、できるだけ対処していくという課題はあります。

コロナは下火で、扱いがインフルエンザ同様になりました。でも、重症な風邪であるインフル、コロナには、人込み・密接状況などを避けるなど、罹らないようにしたいです。高齢では免疫力が低下することもあり、重症化するかもしれません。重症な風邪も、高齢者では気を付けるべきことです。

認知症は、難敵の一つです。登場が期待されている薬は、まだ一般認可されていません。まだ決定版はありません。健康、体調、気力を充実させましょう。コロナ後認知症もあるようです。

特殊な認知症である、てんかん性認知症、レビー小体型認知症は、薬が有効です。今年、急に認知症になり、他院では精神科に入院するしかないと言われた状態で、当科に入院してもらい安定剤の他、数日寝てもらった強力なてんかん治療後の抗てんかん薬で、認知症が治った高齢の方がおりました。今日も元気に外来に来られました。ご主人よりボケていないとのこと。またどうしても進んでいく認知症

効な薬は出せません。しかしそれでも家庭内では対応できなくなることもありません。介護制度、入所制度などに対応していく道も考えなければなりません。認知症以外、頭痛の他、めまい、ふらつき、耳鳴りも年齢と共に増えるようになります。脳などの病気がないことを確認後は、年齢から来るこれら症状を治すのはなかなか難しいのですが、それでも我々は緩和する薬も用意しており試して頂きたいと思えます。

最も多い腰痛の他、膝などの足腰の痛み、しびれ、怠さ、冷感も、年齢と共に増え、手術的に治せる状態もありますが、多くは、薬などでどう対処していくかです。今週も肩甲骨が痛くて他院に受診、病気はなさそうといわれ、痛み止め薬、湿布をもらったが治らないという方が来られました。筋肉をほぐす薬を追加して良さそうです。骨が丈夫、内臓が大丈夫で、痛み止めでは治らない場合、痛みの原因が筋肉性、神経痛性のことも多く、有効な薬も処方できます。

健康にいい、病気に悪い状態として、便秘、不眠、頻尿（特に夜間）もあり、対処していくべきで、試して頂ける薬も処方しています。睡眠導入剤は認知症に悪そうに聞こえてきますが、実際そうでもなさそうであり、ほぼ悪くなさそうなお薬もあり、むしろ不眠は認知症の大きい原因とも考えられています。